

# 第4学年3組 図画工作科学習指導案

日 時 平成28年11月29日(火) 第5校時  
在籍数 男子14名 女子14名 計28名  
指導者 教諭 滝沢 和子

1 題材名 ゆめいろらんぷ

2 題材について

(1) 児童の実態について

## (2) 本題材を指導するに当たって

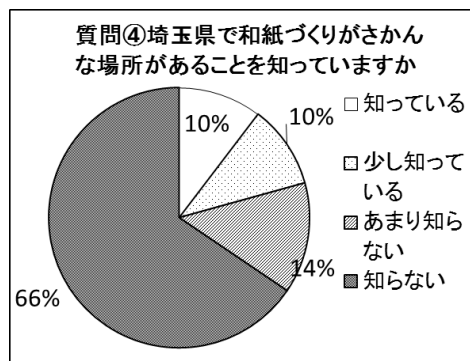
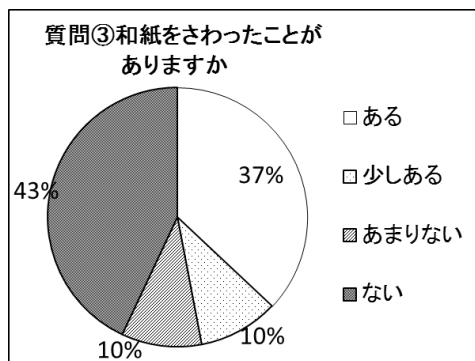
本題材は、材料の組合せによって変化する光のよさや面白さなどを味わう題材である。

題材を指導するにあたっては、児童が和紙や色セロハンなどの光を透過する材料で自分の気に入った色や模様をペットボトルに施し、天井や壁などに映る光や影のよさや面白さなどを感じ取りながら活動できるようにしていく。また、完成したランプを友人と協力し並べ方や展示の方法を工夫することで、光の様子が大きく変わることを経験できるようにしていく。

本学級の児童は、日常生活の中で材料の一つである和紙にふれた経験があるのは47%（資料③）と少ない。そこで、導入では折ったりちぎったりするなど、十分に和紙にふれる場面を設定し、さわり心地や耐久性などの特徴に気付くことができるようにしていく。また、LEDライトに和紙をまいたり、かぶせたりして透過光の色や様子について、感じたことや気付いたことを話し合う活動を設定し、表したいものへの発想を広げたり、材料の使い方を考えたりするきっかけとしていく。

ランプづくりにおいては、材料の材質や色、組合せによって光の感じが違うことに気付くことができるように、いつでも光の効果を試せる学習環境をつくる。具体的には、図書室廊下を「つくる場」とし、その隣の室内を暗くできる視聴覚室を「光の効果を試す場」として、二つの部屋を自由に行き来しながら活動できるようにする。「つくる場」の図書室廊下にも、段ボールに黒い画用紙を貼りつけた「お試しボックス」を三つ用意し、手軽に光の効果を試すことができるようにする。このような「つくる」→「見る」→「考える」→「つくる」…という表現と鑑賞のサイクルをつくることで、児童一人一人の造形的な資質や能力が十分働くようにしていきたい。また、児童の思いに応じランプの形が工夫できるように、ペットボトルを切ったり、曲げたりする簡単な加工の仕方についても適宜、指導していく。また、簡単な形をかたどった和紙の張子を用意し、必要に応じて活動が停滞している児童等に紹介し、活動の活性化を図っていく。

本題材で使う和紙は、小川町でつくられたものである。和紙づくりが埼玉県伝統工芸の一つであることを80%の児童が知らない（資料④）。和紙とふれる活動を行った後、和紙づくりが埼玉県伝統工芸の一つであること、使用した和紙が小川町で作られたものであることなどを伝え、材料を通して埼玉県の伝統文化のよさにも目を向けるようにしていく。



### 3 学習指導要領上の位置付け

A表現（2）ア感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見つけて表すこと。

イ表したいことや用途などを考えながら、形や色、材料などを生かし、計画を立てるなどして表すこと。

ウ表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表すこと。

B鑑賞（1）ア自分たちの作品や身近な美術作品や製作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取ること。

イ感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いなどが分かること。

〔共通事項〕

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえること。

イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

### 4 目標及び評価規準

(1)目標 身近な材料でランプをつくり、みんなで力を合わせて展示することを通して、心を開き、楽しく活動し、友達とかかわり合う力を培う。

(2)評価規準

造形的な関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<b>表</b> 材料を透過する光の美しさや面白さからランプをつくることを楽しもうとしている。 <b>鑑</b> 自他の表現のよさや工夫などを味わおうとしている。	材料の形や色の組合せを試しながら、表したいランプの形や透過する光の色や影などについて考えている。	材料の切り方や組合せ方、光を透過する材料の使い方などを工夫している。	感じたことを話し合いながら、形や色、表し方や材料による違いなどをとらえて、よさや面白さを感じ取っている。

### 5 指導計画・評価計画（6時間扱い）

時間	学 習 活 動	【 評 価 方 法 】
1	和紙のさわり心地や手で裂いた感じ、太陽光を透過させたときの光の変化などを確かめる。	<b>関(表)</b> 【行動観察・記述・発言】
2 (本時)	自分の「ゆめいろらんぷ」をつくるために、材料の形や色の組合せを試しながら、LEDライトによる透過光の色や影などのよさ、面白さについて考える。	<b>発</b> 【行動観察・表現・対話】
3 ・ 4 ・ 5	材料を組合せて、ランプの基本的な形をつくる。 ランプの外側や内側に集めた材料をつけたり色を塗ったりして、透過光の様子を確かめながら表す。	<b>発</b> 【記述・対話・発言】 <b>創</b> 【表現・記述・対話】
6	友達と話し合いながら、暗くなる場所に工夫して作品を配置して鑑賞する。	<b>関(鑑)</b> 【行動観察・記述・発言】 <b>鑑</b> 【行動観察・対話・記述】

## 6 本時の学習指導（2／6時）

### (1) 目標

- 材料の形や色の組合せを試しながら、表したいランプの形や透過する光の色や影などについて考える。……………**発**

### (2) 準備

- 教師：和紙、半紙、水に溶いた木工用接着剤、洗面器、お花紙、大型テレビ、実物投影機、お試しボックス（内側を黒くした板ボール箱）、デジタルカメラ
- 児童：20のペットボトルを半分に切ったもの、絵の具の筆、のり、はさみ

### (3) 展開 ◆：C判断児童への手立て

時間	学習活動 予想される児童の具体的な姿（「」）	指導上の留意点 （〔共〕：〔共通事項〕に係る内容）	評価と手立て 観点：評価規準 【評価方法】
導入 5分	1 前時の活動を想起する。  2 本時の活動を知る。 「LED ライトの光は白いな。」 「太陽の光を通した感じと何が違うかな。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の机を3～4名の少人数グループで構成し活動しやすいように配置しておく。</li> <li>・ 前時の活動を大型テレビに映し、和紙を透過する太陽光の様子について想起するようにする。</li> <li>・ 本時の活動は、自分だけの「ゆめいろらんぷ」をつくるために、和紙とLEDライト、ペットボトルなどの使い方を工夫し、映る光の影や色のよさ、面白さを考えていくことを伝える。</li> </ul>	
展開 35分	3 和紙を透過する光の変化を試す。 「LED ライトの上に和紙をのせると、和紙全体が光るね。」 「和紙を通した光は、やさしい感じがするね。」 「和紙をくしゃくしゃにしてはるとどんな感じがするかな。」	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>提案1：どんな使い方をすると気に入った光ができるかな？ 和紙の使い方を工夫して自分だけの光をつくってみよう！</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 和紙を透過する光のよさや面白さを感じ取ることができるように、お試しボックスの中で和紙をかぶせたLEDランプを点灯させ、実物投影機で大型テレビに映す。</li> <li>・ 「かぶせる」「まく」「あなをあける」など、和紙を使ってできそうなことを予想させ、児童から出てきた言葉を板書し、活動のおよその見通しがもてるようにする。</li> <li>・ 活動の順序をホワイトボードに示し、見通しをもてるようにする。</li> <li>・ 1人につきLEDランプ1個と、和紙を1枚配布する。和紙は必要に応じて</li> </ul>	<p><b>発</b>：材料の形や色の組合せを試しながら、表したいランプの形や透過する光の色や陰などについて考えている。</p> <p>【行動観察・表現・対話】</p>

<p>「ペットボトルに和紙をはりつけるには、何を使うといいのかな。」</p> <p>「細かく裂いた和紙をLEDライトにのせると、光はどんな感じになるのかな。」</p> <p>「暗い場所で光の感じを試してみよう。」</p> <p>4 気付いたことや感じたことを伝え合う。</p> <p>「和紙にあなを空けると明るい光が見えるよ。」</p> <p>「くしゃくしゃにした和紙をLEDライトの上ののせると和紙全体が光るんだね。」</p>	<p>1枚以上使ってもよいことを伝え、使い方を工夫しながら多様な光の変化を試すことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ お試しボックスの中であついたり、暗くした視聴覚室でどのような感じになるのかを確かめたりするなど、児童の思いにそって活動できるように学習環境を設定する。</li> <li>・ 振り返りの資料として、和紙の使い方を工夫し、自分だけの光をつくろうと試行錯誤している児童の様子をデジタルカメラで撮影する。</li> <li>・ LEDライトの光が和紙を透過したときの色や映し出される模様の変化について教師が児童と積極的に対話することで、<u>児童が自分の感覚を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえることができるようにする。</u>〔共〕</li> <li>・ 「かぶせる」「まく」「あなをあける」など、和紙の使い方を工夫していた児童を意図的に指名し、どんなことを試したのか発表させることで、自分だけの光をつくる工夫についての考え方を共有する。</li> <li>・ 発表の際には、表現したものを実物投影機に映して他の児童に提示する。</li> </ul>	<p>◆：和紙のいろいろな使い方により、光の感じが変わることを児童とともに試しながら、気に入った光の感じについて対話を通して考えられるようにしていく。</p> <p>◆：必要に応じていくつかの活動例を示し、選択できるようにする。</p>
<p>提案2：光を通す材料の使い方を考えて、自分だけの「ゆめいろらんぷ」をつくろう！</p>		
<p>5 気付いたことや感じたことを基にランプの様子を確かめながら表す。</p> <p>「暖かい感じのランプにしようかな。」</p> <p>「元気な感じにしたいから、和紙をくしゃくしゃにしてペットボトルの中に入れよう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ LEDライトの光が和紙を透過したときの色や陰の感じを「やさしい感じ」「元気な感じ」「明るい感じ」などと言葉で表現させるようにする。その言葉を手がかりに自分の「ゆめいろらんぷ」をどんな感じのランプにしたいか全体で話し合うことで、一人一人に<u>自分のイメージをもつことができるようにする。</u>〔共〕</li> <li>・ 児童のイメージを広げるため、水で薄めた木工用接着剤を使って和紙をペットボトルに付けると、ペットボトルの形がきれいに生かせることや、セロハンやお花紙を使うことで、光の色を変えることができることなどを、参考</li> </ul>	

	<p>「お花紙を和紙にはると色がうすくつくね。」  「ペットボトルに和紙をはりつけるには、どうすればいいのかな。」</p>	<p>作品を使って示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>セロハンやお花紙と和紙とでは、透過する光の感じがどのように違うのかなどについて児童と積極的に対話をし、それぞれの材料によって変化する光のよさや面白さに気付くことができるようにしていく。</li> <li>材料を思い付いた形に切ったり、組み合わせたりして、ランプの様子を確かめながらつくっている児童の姿を称賛し、自分のイメージを大切に活動をすすめていく雰囲気をつくるようにする。</li> </ul>	
<p>整理 5 分</p>	<p>6 本時の活動を振り返る。  「暖かい感じにしたかったので、ピンク色のお花紙を和紙の上のせてはりました。」  「元気な感じにしたかったので、LEDの光があなから見えるようにしました。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の表したい「ゆめいろらんぷ」にするために、和紙の使い方や材料の選び方を工夫し、透過する光の色や影を考えることができたかを観点にして、振り返りを行う。</li> <li>透過する光の感じを考えながら、和紙の使い方や材料の選び方を工夫していた児童を紹介し、工夫の仕方でもっとたくさんの光のよさや面白さを見付けていけるとよいことについて確認する。</li> <li>本日使用した和紙は埼玉県の小川町で作られたことを知らせる。</li> </ul>	

(4) 板書計画

<p>ゆめいろらんぷ</p> <p>光を通す材料を組み合わせ 自分だけの「ゆめいろらんぷ」をつくろう！</p> <p>かぶせる                      やさしい感じ  まく                              元気な感じ  あなをあける                  明るい感じ</p> <p>やさしい感じ → ピンク色 → お花紙  黄色 → セロハン</p>	<p>埼玉県の地図</p>	<p>「細川紙」ユネスコ 世界無形文化遺産決定</p>
<p>小川和紙を作っている場面の写真</p>		

(5) 教室環境図

